

# 2022 グランドスラム・パリ



女子 70kg 級  
**準優勝**

にいぞえ さき  
**新添 左季** 3等陸尉



## 健闘

令和4年2月5・6日にフランス・パリにおいて柔道グランドスラム・パリが行われた。柔道グランドスラムは、オリンピック、世界選手権、ワールドマスターズに次いで上位に位置付けされる大会であり、成績によって選手個人にポイントが付与される。このポイントによってオリンピックの出場権が決まることから、重要な大会として位置付けられている。



準々決勝、鮮やかに内股で刈る新添3尉



自衛隊体育学校から、新添左季3等陸尉が女子70kg級に出場し、前回の優勝に続く2連覇に向け大会に臨んだ。大会2日目に出場した新添3尉は、イネス・プレボット選手（フランス）との初戦を序盤から得意の立技で果敢に攻めた。2分51秒、攻めの姿勢を貫いた新添3尉が合技一本で勝利し好発進をした。続く2回戦のマリア・ポルテラ選手（ブラジル）との対戦では長時間の攻防の末、寝技に持ち込み横四方固による合技一本で勝利。準々決勝ではケリー・ピーターソン選手（イギリス）に対し、新添3尉は序盤から完璧な組み手により相手を崩した。その隙を突き腰を深く入れ、32秒で左内股による技ありを奪い、スコアによる優勢勝ちで準決勝へ進んだ。準決勝はジョヴァンナ・スコットマロ選手（ドイツ）との対戦だったが、相手の棄権による不戦勝で決勝へ駒を進めた。決勝は2021グランドスラム・テルアビブで優勝したマルゴー・ピノ選手（フランス）と対戦した。開始早々に新添3尉が組み付きからの左大外刈りを相手に見舞い、攻めの姿勢を見せた。お互い譲らない攻防が続き、両選手ともスコアが入らずゴールデンスコアに突入したが、ピノ選手が新添3尉の隙を逃さず懐に入り背負投げによる技ありで決着した。新添3尉は準優勝となり惜しくも大会2連覇はならなかったが、2大会連続でメダルを獲得するなど、パリオリンピックに向けて世界トップクラスの実力を示した重要な大会となった。

新添3尉は「今回は課題が残る試合になりました。4月の全日本選抜柔道体重別選手権大会までに自分の弱点を克服していきたいと思います。」と今後の意気込みを語った。

自衛隊体育学校から、新添左季3等陸尉が女子70kg級に出場し、前回の優勝に続く2連覇に向け大会に臨んだ。

大会2日目に出場した新添3尉は、イネス・プレボット選手（フランス）との初戦を序盤から得意の立技で果敢に攻めた。2分51秒、攻めの姿勢を貫いた新添3尉が合技一本で勝利し好発進をした。続く2回戦のマリア・ポルテラ選手（ブラジル）との対戦では長時間の攻防の末、寝技に持ち込み横四方固による合技一本で勝利。

準々決勝ではケリー・ピーターソン選手（イギリス）に対し、新添3尉は序盤から完璧な組み手により相手を崩した。その隙を突き腰を深く入れ、32秒で左内股による技ありを奪い、スコアによる優勢勝ちで準決勝へ進んだ。準決勝はジョヴァンナ・スコットマロ選手（ドイツ）との対戦だったが、相手の棄権による不戦勝で決勝へ駒を進めた。決勝は2021グランドスラム・テルアビブで優勝したマルゴー・ピノ選手（フランス）と対戦した。開始早々に新添3尉が組み付きからの左大外刈りを相手に見舞い、攻めの姿勢を見せた。お互い譲らない攻防が続き、両選手ともスコアが入らずゴールデンスコアに突入したが、ピノ選手が新添3尉の隙を逃さず懐に入り背負投げによる技ありで決着した。新添3尉は準優勝となり惜しくも大会2連覇はならなかったが、2大会連続でメダルを獲得するなど、パリオリンピックに向けて世界トップクラスの実力を示した重要な大会となった。



準優勝の新添3尉（写真一番左）

### 試合結果

- 1回戦 イネス・プレボット（フランス）
  - 一本勝ち 合技【内股・内股】
- 2回戦 マリア・ポルテラ（ブラジル）
  - 一本勝ち 合技【横四方固】
- 準々決勝 ケリー・ピーターソン（イギリス）
  - 優勢勝ち 技あり【内股】
- 準決勝 ジョヴァンナ・スコットマロ（ドイツ）
  - 不戦勝
- 決勝 マルゴー・ピノ（フランス）
  - 優勢負け（GSスコア） 技あり【背負投げ】

